

軍務局

案

大正十二年九月十六日午前八時三十分海軍省門前

海軍省副官 横越副官

凡波強キニ付本日ノ通信艦ヲ取止ム



1381

九月十七日

牧田集葉

志才大付版

横濱在日外国船が火化式通信機ヲ假用スルノ事ヲ知ルガ由通信対面ノ

帳簿ヲ行フニト、ナリ左ノ事ヲ在ノ案ヲ出シマシメタル事ニ此際ナリトノ

後モ了 外國ニ在リ時日本船中ノ興へん、対面等集葉ノ局 ヲ白ヒ

トサイ 為本件、取合形ハ不日引キ揚ケトモ故人多クハ冬ニ敷イ内

取トナラヌト、取合形ハ不日引キ揚ケトモ故人多クハ冬ニ敷イ内 思ヒマスガ 在ノ案ノ方ニ 帳簿ヲ出シマシメタル事ニ此際ナリトノ

志才大付版ニ在リ者ニ付後ニスル様ニシテ下サイ

在ノ案ニ外國ニ関係スル人ノ志才大付版ニ付後ニスル様ニシテ下サイ

日本船中ノ事ニ付後ニスル様ニシテ下サイ

外回帳簿

(1) 年々三付ノ年々ハ付込 毎付ノ三十分以内

(取込由信同部ノ付込)

✓ (X) 左ノ外字多ク止ラテ得ルモノ  
印本、改定本、新編本、表ノ取込ヲ記ス

書信ノヒト

凡印ヲヒイテ取レテ出ラヌノテ取テ付ルニナラズハ付取テ取ラス  
野田守常ノ負カ掛ト島ヒマス 為海陸ノ足ニモ付テ下サイ 外國  
此が公化ナリハナクヤテ付取ルノ取込ヲ始メトノットテス

ワ  
取  
ラ  
ス



宛 軍務局

宛 三軒隊 海

軍

模造半葉十三行部紙

一、電話用電線ハ昨十四日午之刻多ニラシテ南洋丸
ヨリ受取ラシメタリ(四・八哩)
該電線ハ高橋ニ於テ伊
勢三島丸陸上内ニ係用スルニモト思惟シ居タニ三島丸ヨ
リ之ハ甚難品川内ニ用エテキモノナル由申越セルヲ以テ
其ノ儘多ニ係在中ナリ
何レニ係用多キモノナリヤ
大至
急ニ通知アリタシ

(富井納)

大正三年九月十七日

松本横鎮宛書

野田軍務局負致

無線電信ニ關スル件

一、楠ヶ山地震にお大破セルモ漸ク雨露ヲ凌キ得ル程  
 度トナリ送信機リテレフンケニ式ハ兎モ角モ送信可能  
 ノ程度但シ之ハ火花式ニシテ他所ノ妨害トナルコト大  
 ニ為メ試験ニ止メ阿蘇縣別々無線機繼續中

二、高岡波ノモトハ未ダ復旧ノ見込ナクハフンケニサー  
 ノ破損大ニシテ之ガ予備品極力蒐集中ナルモ今ノ  
 所何日送信可能ナルヤ見当ツカズ

三、舞臺副無線ノ件ノ了儀

四、別書出先宛書保宛差出置キタルモ

テレフエシガ金般ノ妨害トナルヲト大ニシテ高岡波が  
 従来ノ成績余リ番ハシカラス又其ノ破損後旧永  
 引クヲシキ現下ノ状況ニ於テ若シ在陣島アルハM.式六  
 キヨクテ送信機ヲ横電ニ裝備スルニ當テ急務ナ  
 リト信シ美比ノ莫クテ其ノ置キ ~~機~~ 上之が  
 準備方御墨力御致度切望ニ不堪ナリ

以上

軍務局

電信

電信

情報

報

九月十七日

羅漢地

官報

八紙送

依り

私報

中送

戸使送

依り

一 轉電報

一 奔着

一 毛畧

一 宛成

一 七

但尚本当分ノ内私報

大遠送

才免

不

一 東京市内奔着電報ノ曲線花ノ通り

十六日(市内局宛送開始)

十五日

十四日

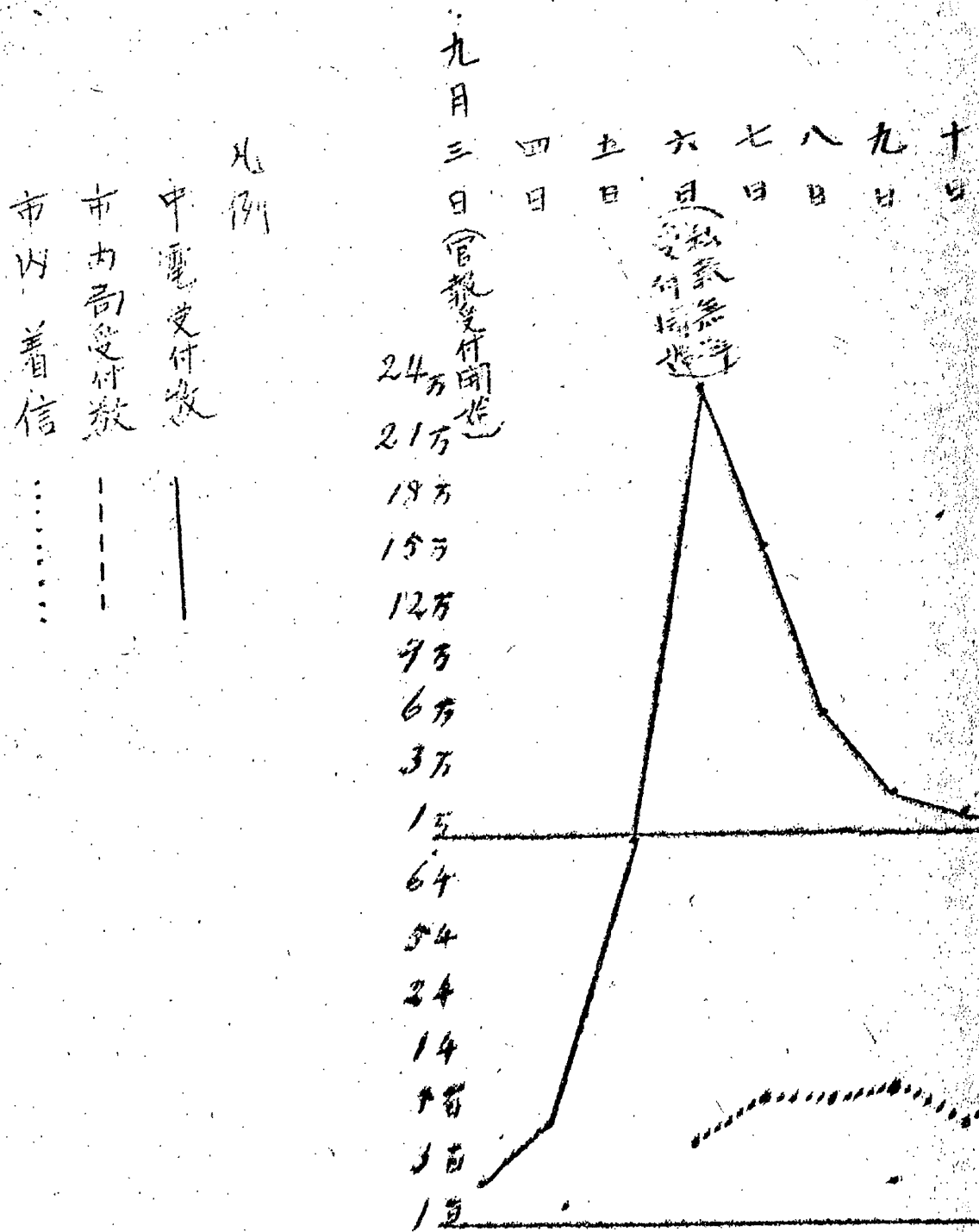
十三日

十二日(私報有許受付開始)

十一日







電信情報 (九月十八日)

副官別室

一、東京中央電信ヨリ、金澤及神戸線盤子  
山開ノ為メ不通中ノ処十七日午後四時全通  
下、在ノ各線ハ後末午住局ニ別込マリシカ  
十七日中ニ全部中央電信局ニマテ延長  
ニ来レリ、重要官報ハ為ニ著シク速達  
ニ得ルコトトナレリ

福島、千葉、宇都宮、札幌

名古屋(三回線)、仙臺、長野

高崎 水戸 大阪（五回線）

一、横浜高輪間電信線元中央電信局ニ引

込ニ得タリ 東京横浜間官報及重

要電報ノ速達ヲ期シ得ヘシ

二、芝公園練習所構内無線ヲ利用シ本省ノ無線

電信局ヲ臨時施設シ全國ト無線連絡ヲ爲ス豫定

一、東京中電ノ取扱数左ノ如シ

発信通数 三九〇一

着信ノ 一四九五

中継ノ 四八四〇

計 一〇、二三六

九月十八日

軍務局長

牙三義、隊司令官丸

九月十八日  
午前十一時  
東京海軍省

三島丸ハ尚ホ山崎報及緊急公衆報  
之取扱方當之付合船送候ニ相申後  
宜ク呉ヘラレトモ、為難無任申上ル  
公衆電報ハ東京海軍省及其ノ附ルニ於テ  
ハ扱方之制限アリクモ上白通候者ニ申  
入済スル候

(宮井納)

大正十一年九月

十八日

午後一時三十分

海軍當者

局發

發信者

横須賀鎮守府長

受信者

軍務局長

電報譯

來ル二十日當田地口川間定期通信艦便ヲ  
 左ノ通り一日ニ一回ニ改メ午前九時横須賀發  
 午後三時品川発孰シモ横濱經由便船ハ  
 各々一時間前棧橋迄便乗ハ却内者ニ限  
 ル

九月十九日

牧田集傳

去十六日付

一、聯合船中船中ノリ揚カト共ニ聯合船中便設電行ケルヲ撤收ス

二、左便設電行ケリ揚カノ上ニ東京電信ケルヲ式ヲ改メ電信機ニ依リテ西川中

ノ電線及 船中便設電中ノ各一船ト直接通信ヲ行フ様ナリト改

電線側ノ通信機長ニ全井線電信機ノ機長ヲ配屬ヲ好都合トス特ニ

希望者ニ往來通リ也。○未ト改メ改メ

三、未ニ十月<sup>合子</sup>リ聯合船中ノ各一船ト直接通信ニ復スケ定

初ニ東京電信ケルヲ東京電信ケルヲ改メスニ様ナリト改メ

四、可船中ノ一船中ノ各一船ト直接通信ニ同シテ改メスニ様ナリト改メ

ノ電線及全同等ニ未ニ由東日ニ望リ候レリ

（部）<sup>合子</sup> 通信機方

ノ電線及全同等ニ未ニ由東日ニ望リ候レリ



島嶼及び内海航行

一、商船ノ通信

(1) 偶あつた方ヲ商船用奇あつた方ヲ海軍用トシテアリ。但レノ塔燈船  
通信ニ對シテ應答及了解ニ奇あつた方ト雖モ許レアリ。

尚多艘ヲ其監視ル指定シ嚴重ニ監視セシメテアリ。

(2) 三島丸ト銚子トノ通信ニ可成リ頻繁ナルカ如シ之ニ對シテ

八重山等トワケリ。是レ之ノ規定ノ外ト思ヒ。

二、通信ノ好壞ヲ被ル程

(1) 隊内ノ波長ニ可成甚シク是レ使用ノ機會極稀ナルト信

号通信ノ道ニ故先ツ云々ナリ。

(2) 一〇〇。一日中ノ内給付ヲ受信不可能ノ時



ハ約四時官位ナルベシ

三 三時隊ニテ、スバークシラは用セシトノ事ハ

(イ) 各<sup>キ</sup>代<sup>カ</sup>式固障<sup>ノ</sup>為一時<sup>ノ</sup>使用セリ

(ウ) 大井<sup>ノ</sup>丸<sup>ヲ</sup>輕便<sup>ニ</sup>運送<sup>ス</sup>梯<sup>ヲ</sup>陸岸<sup>ニ</sup>（海神<sup>ノ</sup>あり敷<sup>キ</sup>）

備<sup>（</sup>アリ<sup>）</sup>（砲<sup>ノ</sup>長<sup>ノ</sup>官<sup>ノ</sup>位<sup>）</sup>但<sup>レ</sup>自<sup>（</sup>信<sup>）</sup>取<sup>（</sup>極<sup>）</sup>小<sup>（</sup>ニ<sup>）</sup>他<sup>（</sup>ノ<sup>）</sup>自<sup>（</sup>信<sup>）</sup>

位<sup>（</sup>ヲ<sup>）</sup>努<sup>（</sup>力<sup>）</sup>ス<sup>（</sup>ル<sup>）</sup>務<sup>（</sup>カ<sup>）</sup>コ<sup>（</sup>ト<sup>）</sup>玉<sup>（</sup>ク<sup>）</sup>見<sup>（</sup>ル<sup>）</sup>

四 外國<sup>ノ</sup>航<sup>（</sup>路<sup>）</sup>一<sup>（</sup>般<sup>）</sup>ノ<sup>（</sup>強<sup>）</sup>カ<sup>（</sup>ヲ<sup>）</sup>始<sup>（</sup>定<sup>）</sup>ス<sup>（</sup>被<sup>（</sup>シ<sup>）</sup>ト<sup>（</sup>ア<sup>）</sup>ル<sup>）</sup>未<sup>（</sup>ダ

時<sup>（</sup>官<sup>）</sup>ノ<sup>（</sup>協<sup>）</sup>定<sup>（</sup>ハ<sup>）</sup>ナ<sup>（</sup>シ<sup>）</sup>ア<sup>（</sup>ラ<sup>）</sup>ズ

軍務局

大正十二年九月十九日 吳艦名取

第五戰隊司令部

郵便物發送先

第五戰隊司令部、名取、由良、鬼怒、長良

宛郵便物ハ

爾今 靜岡縣江尻局氣付

(終)

傳

電

商田

藤田

送附紙

共

軍務局長 第一課長

第二課長

塩澤

田中

田中

大正十三年九月五日 軍務局長

横鉄 参謀長宛

九月九日起 案  
九月五日 發行 濟

船橋送信無線電報之関スル件

九月一日震災以後、於船橋送信無線電報之関スル件、  
特投ヨリ、案送セル無線電報中、別紙ノ通ルモノ  
有之矣、又右ノ有線連絡杜絶ノ爲メ、之ヲ東京海  
軍無線電信所長(海軍省所屬)ニ報告セルモノ

軍第七五號

ト認メラシメテ之等ノ電報ハ其ノ時海軍一部由ハ勿  
 論遠ク内外玉ノ一部ハ之ノ用ニ盡セラシメ  
 船橋送信所ハ海軍無須通作中樞機關トシテ其  
 ノ送信ノ物ニ注意スヘキハ申入ル迄モ無キトナリト  
 殊ニ遭難符ノ緊急送送セルカ如キハ甚輕率  
 ニシテ延イテハ帝玉海軍ノ威信ニ係ルモノアル  
 ヤ之愧メラシメテ此ノ際馬ト其ノ時ノ情況ヲ承知  
 致度矣糸右ノ知ノ上調査方ニ御取  
 計ヲ得度  
 右申進ス

○九月三日午後八時三十分

「騎兵三千名七時中子為大戒ノ任ニツキツツノ所迄  
解人ノ不穩ノ端ナシ」

○九月三日午後八時三十分

「舟橋送付何製取手ノ旨アリノ旨ニ依  
援取付、騎兵一ヶ少隊高後ニ来ル旨也  
斗々来不ス」

○九月四日午前八時十分

「本所所據取手ノ旨の如ク製取手セル不違  
（國接）騎兵三千、其多國階防隊等ノ如ク戒  
無言員ニシテ到底取付不可能ニ付、一五〇ノ  
計ニ多南方面ノ陸軍ニ在ル以上兵ノ餘力ナシ  
九月四日夜

S.O.S 送

（船橋）  
（外遣）

（宮井納）



軍需兵第七〇七號

大正十三年六月七日

海軍省軍需局

横須賀海軍軍需部御中

四軍心裝艦電纜一件

一月十八日附横軍需兵第八〇号以照會右件電纜一〇、〇〇〇米八取  
 調へ、結果兵器ニシテ、經理局係管ノ通常物品ニ付便宜部内運送  
 船便ヲ利用シ、佐世係海軍軍港務部宛送付相成度尚右ニ要ス、費  
 用ハ經理局ヨリ別途配付、答ニ付同局宛直接請求相成度  
 右通勝ス

了

海

軍

模造半葉十一行算紙



軍需券第七〇七號之

大正十五年六月七日

佐港務部宛

海軍省經理局

軍心裝鏡電鏡一併

右件二周之別紙寫一通横須賀海軍軍需部宛及通標置後系御了知  
上現品封達次第黄部ニ於テ便宜長崎追運概ニ通信者長崎電鏡  
地ニ委託格納方取計相成度尚費部ヨリ長崎迄ノ運搬費ハ經理局ニ於テ別送  
配付方可取計ニ付其ノ額取調同局ニ通報相成度

右總會々

追テ軍務局長通信者通信局長同往横書款字一拾陸付ス

機密生葉十一行世紙

海

軍了



軍第三六号

大正五年六月六日

軍務局長

通信者通信局長宛

海越電線格納ニ関スル件

二月八日附工第三二八号ヲ以テ御照會右件ヲ承蒙ニ御送付方相續候  
 電線ニ不安ニナリタメ当部内運送船便ヲ利用シ費者長崎電線  
 地ニ不安格納ノ事ニ取計置候条可然御了知ヲ得度  
 右照會ス

3

海軍

横濱正金十、行軍紙





工第ニ八号

大正十一年二月八日

通信省

通信局長

海軍省 軍務局長 殿

海軍省 電線掛出ニ関スル件

十二年九月十五日工第五〇二八號 閣下

震災當時要局要求ヨリ九月十四日横濱ニ當省南洋九月軍艦多  
 摩ニ移送ノ心入深海線四、八四七哩ハ便宜當有ヨリ委託長崎倉庫  
 格納線自一心入深海線一五、六二八哩連續ノ分ヨリ前記數量ヲ差引キ  
 返戻ノ下ニ處理致置候條 謹知 相成度

模造手葉下、行界紙

海

軍

〇



軍務局

軍第五八號

大正十三年五月三十日

北岡軍務局々員殿  
藏田横須賀鎮守府參謀

第二課 濟

通信用電纜ノ件

本件ニ関シ別紙甲號ノ通海軍兵學校副官  
ヨリ照會有之候ニ付當軍需部ニ就キ取調  
ヘ候處別紙乙號ノ通ニ候條御取調ノ上  
何分ノ御回答相煩度  
右照會ス

軍務局接慶

三六二番

1407

別紙ニ葉添

(終)

右書僞の裏完後序修有ハ其程ニ世傳  
三由女師學備の上ニハ其味も地ノ思ハ  
其味も其味も其味も其味も其味も其味も  
其味も其味も其味も其味も其味も其味も  
其味も其味も其味も其味も其味も其味も

甲 魏

兵學第九五號

大正十三年五月二十日

今泉海軍兵學校副官  
藏田横須賀鎮守府參謀殿

通信用電纜ノ件

客年九月關東地方震災當時東京灣ニ在リテ  
救護任務ニ服シツアツタル第三戰隊ハ海軍省ヨリ  
供用セラレタル遞信省用電纜(長サ約五哩、保軋品  
ト思ハル)ヲ以テ軍艦伊勢ト陸上トノ通信線ヲ作リ  
タルヤノ趣ニテ其ノ後任務終了ト共ニ右電纜ハ

軍艦球磨ヨリ貴府ニ還納セラレシヤニ及聞候處  
現時ハ如何ナル現状ニ有之候哉若シ不用トナリ居  
左記理由ニ依リ保轉相受度希望ニ有之ニ就テハ  
御差支ノ有無兼知致度

右照會ス

左記

從來江田島郵便局ハ土地ノ關係上特殊郵便局ト  
シテ取扱ハレ公衆電話ノ開設ヲ得ルニ不至本島ト吳方  
面ト一般公衆電話ノ利便ナキハ本校トシテモ多大ノ  
不便ヲ感スル次第ニ有之候爲是レ迄機會アル毎ニ  
當郵便局ハ勿論廣島遞信局宛照會シタルコト

モ一再ニ留マラス候モ前記ノ事情ト經費ノ關係上常ニ  
頓望波滯致居候然ルニ其ノ内情ニ搜ルニ江田島吳  
間ニ埋餘ノ電海軍纜サアレハ其ノ餘ノコトハ附帶シテ實現  
可能必スシモ困難ナラサル事情ニ在リ

於是種々遞信省用電纜ノ心當リヲ物色中ノ處  
偶々主文ノ如キ話ヲ當時多摩副長松本中佐ヨリ  
聞知致候ニ付近ク皇太子殿下ヲ迎ヘテノ本校卒  
業式ヲ控ヘ居ル際取急キ布設ノ急務ヲ痛感シテ  
次第ニ有之候

右事情御諒察ノ上可然御執成願上候

終

乙親

横軍需兵第六五八號ノ二

大正十三年五月二十八日

岡野横須賀海軍軍需部々員

藏田横須賀鎮守府参謀殿

通信用電纜ノ件

兵學第九五號ヲ以テ貴官宛照會ノ首題電  
纜ハ軍艦球磨ヨリ單心裝鎧電纜一萬米(長  
サハ球磨乗員ノ言ニシテ實際ノ長サハ不明)預リアル  
モ何處ノ財産ナルヤ不明ニテ曩ニ海軍省ハ照會  
シタルモ未タ回答ニ接セサルモノニシテ兵學校ハ保轉方



差支ノ有無目下ノ處當部トシテハ明言致兼候  
條御了知相成度  
右回答ス

終

1413

寫

第 三 三

大正十二年九月二十三日

東京海軍無線電信所長田中茂友  
横須賀鎮守府司令長官野間口兼雄殿

書類提出ノ件

一 震災情况及慈善救護措置報告 志部

右提出又

(別紙添)

(封)

海軍

1414

震災情況並善後處置報告

九月一日震災為被ノノ損害中直接通信關係スル定

左ノ如シ

一海軍省内受信所及松橋送信所間通信線全部切斷有線連絡不能トナ

二東京電燈會社ヨリ海軍省内受信所へ送電停止受信所裝備一吉半電球送信機ニ依ル無電

通信不能トナ

三送電停止結果受信所受信用テ電池充電不能トナ

四松橋送信所ニ次電池並排氣筒倒壞雨漏ヲ生

右ノ被害依リ送受信所間有線無線連絡全

杜絶シ松橋送信所於テ單獨送受信ヲ行得  
 ル外受信所ハ僅カ敷日間、受信堪ルニ至ル  
 依テ受信所於テ電信員ヲ築地技術研究所  
 派遣シ同所裝備、火花式送信機ヲ以テ送信所  
 ト無線連絡・努力ニ果サスニ向研究所、燒失セリ  
 尚本同研究所ヨリ同時無線電話機ヲ借リ受テ  
 受信所・裝備シ受信用ニテ電池ヲ以テ無線連  
 絡ヲ試シ之應答ヲ得ヌ午後十一時ニテ電池  
 減耗セテ以テ送信ヲ中止ス爾後送受信所  
 連絡ハ徒歩連絡・依リ極大ノ程ニ途ヲ索メ之ヲ  
 行フ外ニ至ル  
 午後三時半頃松橋送信所ハ松橋ニ於テ得タル  
 諸情報ヲ綜合シ獨斷專行一隊艦艇所ニ

對東京方面一休震災火災關係第一

情報ヲ發ス

午後四時頃、東京市内各方面起ル火災  
猛烈ヲ極メ漸次海軍省ニ接近ス來ル以テ非  
直員ヲ火災見張地ニ火粉落下依ル延焼  
ヲ防禦セム

九月二日午後六時特務艦膠州ヲ陸揚セル石吉移動  
無線電信機ニ依リ船橋ニ無線連絡ヲ試ス  
之發動機不具合ノ爲メ目的ヲ達セズ

九月三日早朝陸軍電信隊ノ手依リ海軍省小松川間  
電信線架設ヲ開始ス

午後五時半度信所ニ三馬力石油發動機附  
直流發電機機機裝備完成直ニ一吉半電

無線送信機。送電。送信。試。電力不足。  
爲。目的。達。依。回。初。受信用。  
水電池。充電。

夕刻送信所。不送。團。船橋。來。報。  
接。直。海軍省。副官。陸軍省。派兵。  
ヲ。求。先。船橋。送信所。交。依。  
騎兵。學校。騎兵。名。船橋。送信所。來。着。  
九月四日午後六時過。橫須賀。軍需部。送付。來。ル。  
吉。或。移動。電信機。依。初。船橋。送信。  
所。連絡。採。得。タリ。  
夜。船橋。送信所。不送。團。襲。來。危。急。報。ス。  
ト。報。アリ。

本日膠州乘員及本所員、手依、芝浦、機橋。

假設電信所之建設（指揮官妹尾大尉）

九月五日午後海軍省小松川間、電線架設終了

小松川船橋間、從來電線補修之工事架

設線・接合之送受信所有線連絡セシム刻

至、故障不通也

午後三時半東京電燈會社より交流送電依り

海軍省内へ假設七十五吉電動發電機を使用

之、一吉半電球送機送信可能ト也

午後三時霞浦航空隊陸戰隊三十七名船橋所

へ來着

午後八時半歩兵學校より歩兵十六名船橋送信所

へ來着

九月六日軍艦長門より電線架設並補修隊來着

九月七日  
得免以渡部特務中尉指揮下小松川船橋  
間電信架設ヲ開始ス尚不爾後數日且且  
芝浦校橋至ル電話線其他、電話線四線  
ヲ架設ス長門兵員ノ手ニ依リ海軍者内ニ假設  
電信所ヲ建設ス(指揮官志摩大尉)  
夜水雷學校ヲ電信員二十名受信所ニ來着  
早朝水雷學校電信員四名ヲ船橋送信所  
同七名ヲ海軍者内ニ假設電信所ニ派遣ス  
午前十時騎兵二十名歩兵十六名船橋送信  
所守備ヲ撤退ス  
午後小松川船橋間電信線架設終了海軍  
者ヲ架設ル電信線ニ接合シ通信連絡ヲ  
回復ス然レ共爾後數日間故障頻發ス

1420



九月八日午前五時霞浦航空隊陸戰隊船橋送信  
所準備ヲ撤退ス

九月九日水雷學校ヲ電信員八名來着廿二補假設  
電信所ニ派遣ス

九月十日夕刻横須賀航空隊ヲ機關部員六名來  
着海軍省內及芝浦假設電信所ニ各三名  
宛派遣ス

九月十七日市内燒跡ニ架設電線ニ補修ニ努ムルニ  
屢々故障ヲ生シ通信不能トナリテ更ニ郊外  
ヲ迂迴シ海軍省小松川間ニ半永久的電信  
線一條ニ架設ヲ開始ス  
架設隊員指揮官服部中佐長門架設隊  
員年四七名職工十五名本所員四名

九月五日正午部外迂迴電信線架設終了

長門、假設と海軍省の假設電信所ヲ撤  
去之本所内ニ假電信室ヲ設置ス

九月五日正午水雷學校電信員四名ヲ第二艦隊司令部ニ派遣ス

終

1422

九月二十五日

第二船隊横橋出張所

海軍省副官殿

横須賀鎮守府通信船発時刻変更件

横須賀鎮守府通信船凡川発時刻ヲ二十七日

ヨリ午後二時ニ改メ凡川横須賀副官所ヨリ出所ニ

無電打之矣

准通

電送横橋出張所ヨリ書類ヲ以テ知事ニ致心

中紙半部十一行分紙



海軍

1423

大正十三年九月廿五日

軍務部長

第三艦隊司令官宛

九月廿五日

撤去電線ハ便宜横須賀鎮守府ニ送付ス  
電佐校ハ東京海軍無事電佐校ニ送付アリ

軍務部長

横鎮参謀長宛

九月廿五日

第三艦隊横鎮ニ使用電線ノ單心保海保  
約五哩一時半ニ付ニ於テ保費方取計ニシタレ

軍務局

海軍

機遣生葉十三百紙

大正十一年九月

二十七日

午前七時

五分

海軍省著

午後

時

分

刷發

發信者 第三戰隊參謀部

受信者 軍務局員

電報譯

當隊ニ敷設セシ海軍電線ハ本日撤去ス  
電話機並ニ電鑽ヲ取敢ス横須賀ニ運搬  
シ同地防備隊ニ引渡シテ度又無ク  
レハ同隊ニ受領方指示取計シ度

参考電報ハ伊勢カニ機物及三島丸一機物  
向ニ取寄ルル有第ニ向同口ニ見越ス  
。予電機他ハ遠方ノ所取ニ受電機他ニ機  
送ノ事ナシ  
(機物及電機他破壊セシ見テ付)

三十一通

海軍

模造半葉十三行部紙

大正七年九月 日 軍務局長

第一第二艦隊

横 鎮 参謀長

東軍艦隊司令官

（宛）

九月廿七日起 案  
九月廿七日發付 濟

東京湾方面ニ於ケル無線

電信通信复制ニ関スル件

本件ニ関シ九月七日附テ以テ申進ノ次第ニ有

之矣知今般更ニ別表ノ通政ニ九月二十五日

軍務局長ノ安貝施セシメラルルニト相成ヌカ

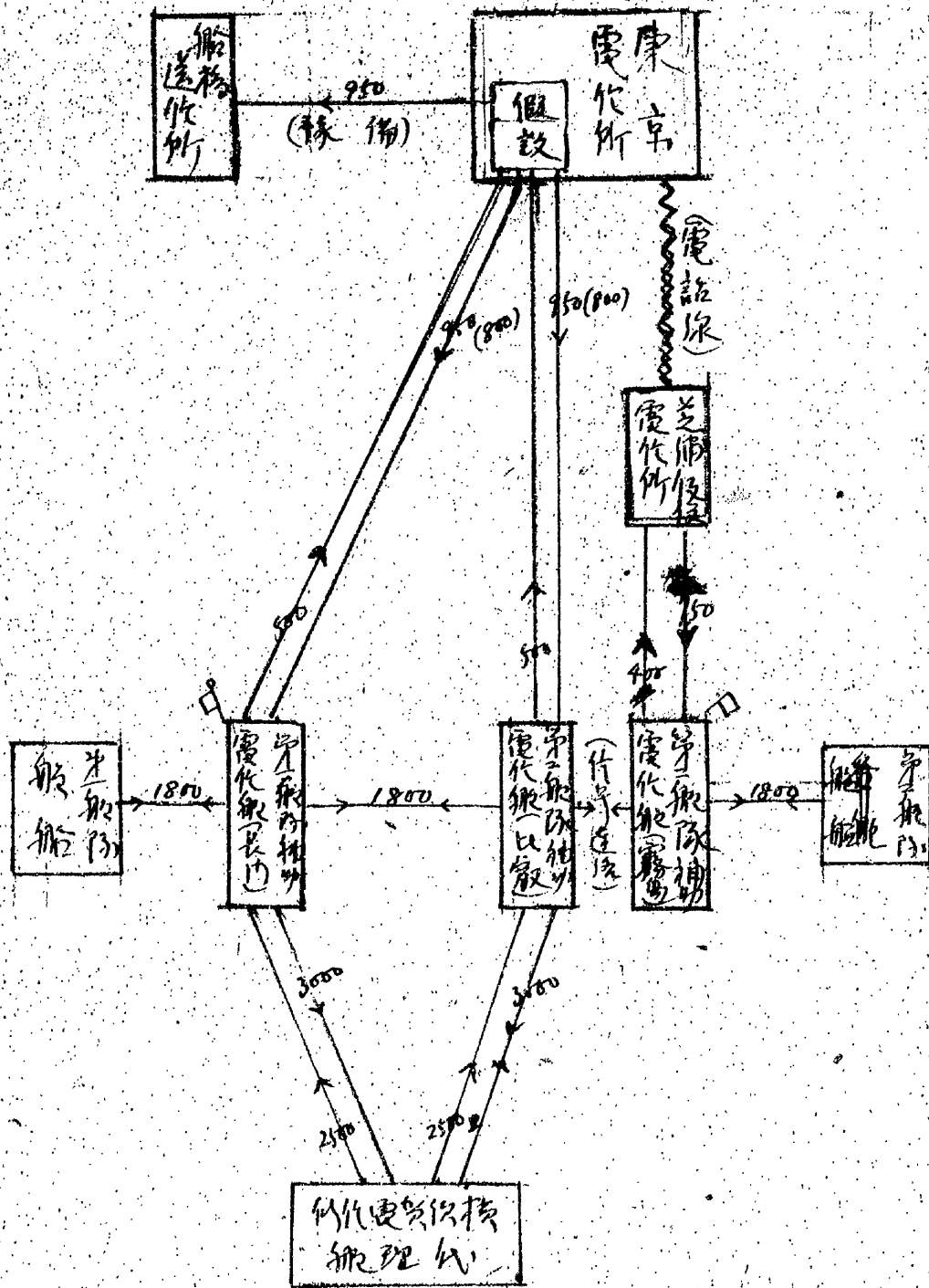
軍第七〇二號

（密非納）

了知の上の如く所取計の得度  
右依命申進ス

追つ別表の定ルルノ以外ハ海軍無線電信  
平時通信の官制の圖ニ規程之依ル  
御承知相成度又聯合艦隊東京方面  
方面在仰申之高限リ適用スル候  
御承知相成度

海軍





大正十二年九月七日

海軍省軍務局長大角岑生

第一艦隊參謀長

横須賀鎮守府參謀長 殿

練習艦隊司令官

東京灣方面ニ於ケル無線電信

通信管制ニ関スル件

本件ハ當分尤表ニ依リ實施セシメラルルニト相  
成候條御了知、上可然御取計ヲ得度  
右依命申進ス

